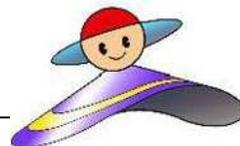


京都市青少年科学センターの取組概要



参考資料

● 概況

- ・ 1969年5月、「『科学者精神』を体得した将来の市民の育成」を目的として現在地に設立。前身は、戦後に科学教育振興の先駆けとして大きな役割を果たした「科学教室」（1951年設置）。
- ・ 2025年3月、博物館法に定められる博物館に登録（1979年、博物館に相当する施設に指定）。
- ・ 子どもたちの理科教育や市民の生涯学習の振興に向け、多くの大学や企業団体等との連携・協働、御支援を賜りながら、「センター学習」や「教員研修・学校等支援」、「市民科学事業」など、様々な取組を推進。
- ・ 展示場の一般入館者数は年間で約14万人（その他、センター学習等での来館者あり）。

所在地：京都市伏見区深草池ノ内町13



[地下鉄竹田駅から東へ約1km、京阪本線藤森駅から西へ約400m²]

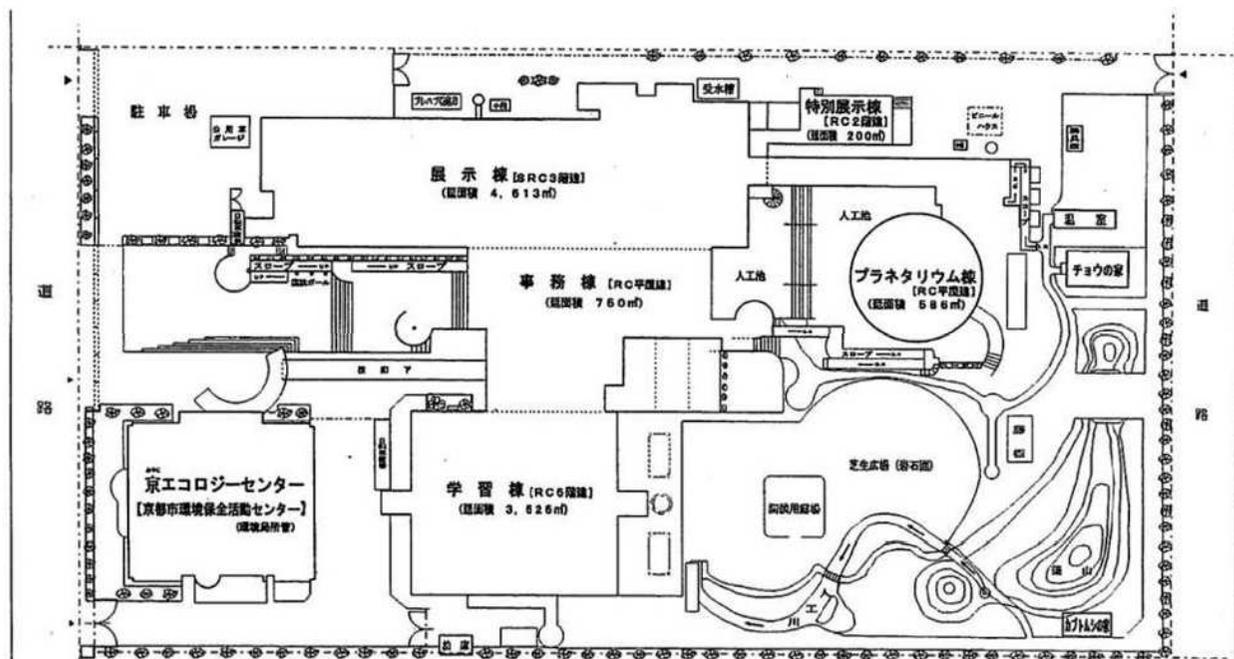


● 施設について

- 用途地域 第1種住居専用地域、容積率 200%、建蔽率 60%、高度地区 20m第2種高度地区
- 敷地面積 17,408㎡、延床面積 9,674㎡（鉄筋コンクリート造地上3階）、屋外園 5,200㎡
- 1969年竣工。指定都市の科学館15館の中では一番古い施設（設備）。目標耐用年数は80年。

<建物等の主な内容>

- 学習棟 3,525㎡
実験室、天文台など
- 展示棟 4,813㎡
展示スペース（2,030㎡）など
- プラネタリウム棟 586㎡
- 事務棟 750㎡
- 屋外園 5,200㎡
チョウの家、カブトムシ飼育所等



第2展示場(3階)

- | | | |
|-----------------|---------------|------------------------|
| ①元素のつくる世界 | ①7 推理ボックス | ③2 音であそぼう |
| ②実物元素周期表 | ①8 砂振り子 | ③3 メロディーパイプ |
| ③結晶の世界 | ①9 光の池 | ③4 ふしぎなシーソー |
| ④水の波の性質 | ②0 投げた物体の運動 | ③5 フレネルレンズ |
| ⑤ストロボと測定 | ②1 落体の実験 | ③6 滑車のはたらき |
| ⑥みらい地球儀 | ②2 できた! 竜巻 | ③7 空気がうすくなっていくと |
| ⑦太陽の動き | ②3 気象コーナー | ③8 NKS磁石 |
| ⑧地軸の傾き | ②4 ランフォリンクス | ③9 京都の企業展ブース |
| ⑨地球の公転 | ②5 プテラノドン | ④0 トムソンリング |
| ⑩蛍光・放射性鉱物 | ②6 パラボラ型空中電話器 | ④1 電気と磁気のワンダーランド |
| ⑪美しい炎の世界 -炎色反応- | ②7 くもダス | ④2 気候と環境体験ルーム |
| ⑫カラフル光ラボ | ②8 西山丘陵の地層 | ④3 ドローンロボ ~飛行のヒミツをさぐる~ |
| ⑬色で見る酸とアルカリ | ②9 深草谷口町の地層 | ④4 電磁石パワーボール |
| ⑭2進法による数あて | ③0 ジオエリアKYOTO | |
| ⑮しょうとつらボ | ~京都の地質を感じよう~ | |
| ⑯秒の世界 -ふりこと時間- | ③1 マグマからできた岩石 | |

3F



しょうとつらボ



2F

親子ふれあいサイエンスルーム

小学校就学前の乳幼児と保護者の皆さんが、科学を体感できる遊具を通して親子で触れ合う場です(小学生や団体での入室はご遠慮ください)。



- | | |
|-----------|--------------|
| ① バブルタワー | ⑤ 不思議な鏡 |
| ② 落書きコーナー | ⑥ くるくる機関車 |
| ③ 光の池 | ⑦ シャボン玉を作ろう! |
| ④ 浮き玉 | |

1F



日替わりの科学演示実験サイエンスライブ

Floor Map



各展示品の紹介はこちら

→ スロープ

第1展示場(2階)

- | | | |
|------------------|--------------|---------------------|
| ① 生きている化石オキナエビス | ⑮ 化石トンネル | ⑳ 磯の環境 - 「海の中の生命」 |
| ② 世界の昆虫 | ⑯ 魚竜 | ㉑ 潮間帯の生物 |
| ③ 京都ゆかりのノーベル賞 | ⑰ アロサウルス頭骨化石 | ㉒ 貝・甲殻類標本 |
| ④ ふしぎを見つける宇宙の旅 | ⑱ プロトケラトプス | ㉓ 心臓のはたらき |
| ⑤ さかさ鏡 | ⑲ ティラノサウルス | ㉔ 肺のふしぎ |
| ⑥ 曲面鏡 | ⑳ タルボサウルス | ㉕ 心臓からの信号 |
| ⑦ 波面鏡 | ㉑ サウロロフス | ㉖ 映像コーナー |
| ⑧ パタノスコープ | ㉒ アジアゾウ | ㉗ チョウのふしぎ |
| ⑨ 人間万華鏡 | ㉓ デスマスチルス | ㉘ むしむしワールド |
| ⑩ ボールコースター | ㉔ マチカネワニ | ㉙ 惑星の運動 |
| ⑪ 地震をさぐる | ㉕ 鴨川のいきもの | ㉚ 地震計室 |
| ⑫ 振り子は語る -地球の自転- | ㉖ いきもの研究室 | ㉛ 京都府レッドデータブックの生物標本 |
| ⑬ フーコーの振り子 | ㉗ テレビ顕微鏡 | |
| ⑭ 花折断層 | ㉘ 水中の微小生物 | |

プラネタリウム

光学式プラネタリウムとデジタル式プラネタリウムを組み合わせた、ハイブリッド式プラネタリウムです。プログラムは当センターのオリジナルです。生解説のため、同じプログラムでも解説者によって雰囲気が変わり、何度見ても楽しめます。



※番組内容や放映時刻はホームページや電話でご確認ください。

- 飲食可能エリア**
(休憩ホール、団体ホール、屋外)
- 給水スペース**
(食事は不可)

屋外園

四季折々の植物が観察できる岩石庭園です。時には野鳥や小魚を発見することも。全国から集められた岩石や化石も見どころ。屋外園としてもオススメです。「チョウの家」では年間を通じて沖縄のチョウを観察できます。



- | | | | |
|---------|----------|----------|---------|
| ① 太陽光発電 | ③ 百葉箱 | ⑤ 屋外園の植物 | ⑦ 光のリズム |
| ② 日時計 | ④ 屋外園の岩石 | ⑥ チョウの家 | |

● 主な事業について

主な事業	内容
センター学習	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校、総合支援学校段階の子どもが、学校教育活動の一環として来館し、独自の教材やプログラムを用いて実施する観察実験学習。 [小学校6年生は全校参加]
教員研修・学校等支援	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校教員等を対象とし、観察実験の基本的な実技や効果的で安全な指導法など、年間20種類以上のメニューで研修を実施。 観察実験の補助等を行うスタッフの派遣や指導等に関するアドバイス、教材貸出など、理科教育の充実に向けた学校への支援を実施。
市民科学事業	<ul style="list-style-type: none"> 市民の科学に対する興味関心を高めるため、展示場やプラネタリウムの公開、市民向けの各種講座を実施

一般入館者数等の推移

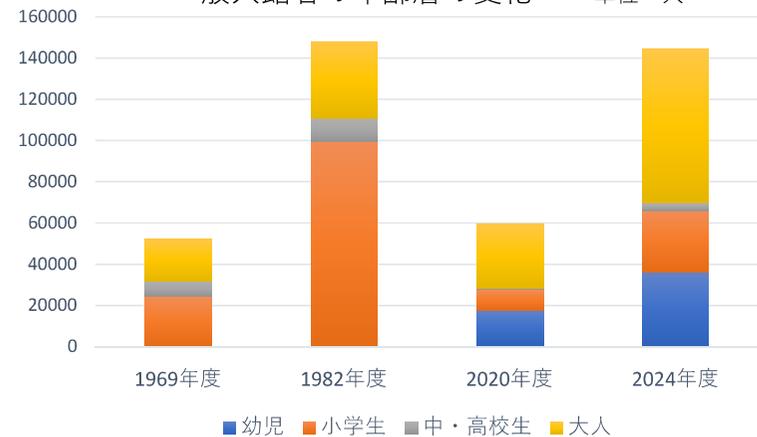
単位：人

年度	1969	1982	2018	2020	2024	
展示場一般入館者数	51,957	147,999	133,304	59,453	144,305	
内訳	幼児	-	-	34,981	17,598	36,101
	小学生	24,321	99,326	33,680	9,852	29,593
	中・高校生	7,436	11,398	3,318	1,141	3,943
	大人	20,200	37,275	61,325	30,862	74,668
	(親子ふれあいSR)	-	-	(28,744)	(12,980)	(34,628)
<参考>						
プラネタリウム観覧者	39,606	115,667	66,707	16,536	70,314	
センター学習	70,139	84,966	31,895	44	25,043	

※ 親子ふれあいSR（サイエンスルーム）：乳幼児と保護者が、科学的な遊具や本などにふれあい、科学の不思議や面白さを体験する場。（2012年度に開設）

一般入館者の年齢層の変化

単位：人



● 特色ある取組について

- 多様な企業団体等との連携・協働により、取組の対象は、サイエンスを基軸に、伝統産業や芸術など他の分野を包摂するものへと広がっています。

○ STEAM LAB.

- 騎手クリストフ・ルメール氏とのトークセッション
(生き方探究×生物)
- バレンタイン プラネタリウムコンサート
(京都市交響楽団×天文)
- いけばなパフォーマンス in プラネタリウム
(伝統文化×天文)
- 立体紙切り師 辻笙氏の自分だけの立体恐竜をつくろう！
(立体紙切り×地学)



○ おとなのセンター学習

- 日本酒の科学 ～酵母の不思議～

「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産登録を契機に企画。
京都酵母を開発した京都市産業技術研究所と連携。
アルコールの性質に関する実験を通じて酵母の働きを学ぶ。

○ 科学×京都の伝統産業×伝統工芸

- 金箔、和ろうそく、京コマ、京友禅 (型友禅染体験)



京コマ職人が講師。
コマが回る物理法則を学びつつ、
京コマを製作。

● 多様な主体との主な連携・協働について

連携手法	連携主体・内容
包括連携協定	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>(株)村田製作所「STEAM教育を通じて次世代を育成するパートナー」【2023年度から10年間】</u> ⇒ 展示場や体験事業等の充実支援。毎年1千万円、合計1億円の寄付。 ・ <u>武田薬品工業(株)京都薬用植物園「教育活動の推進」【2024年度から3年間】</u> ⇒ 屋外園整備や教員研修の充実支援。 ・ <u>京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館「きょうと☆いのちかがやく博物館」【2014年度～】</u> ⇒ 連携イベントの実施（季節ごとに4園館が主催を持ち回って実施）。
体験講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>未来のサイエンティスト養成事業「体験コース」における協力企業・団体【2025年度実績】</u> ナカライテスク(株)、ニデック(株)、京都市衛生環境研究所、大阪ガスネットワーク(株)、総合地球環境学研究所、京都市上下水道局水質管理センター、(株)村田製作所、清水長金属工業(株)、(株)島津製作所、武田薬品工業(株)京都薬用植物園、さすてな京都、(株)ユーラスエネルギーホールディングス
企業特別展	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>企業特別展における協力企業【2013～2025年度実績】</u> ニチコン(株)、京セラ(株)、オムロン(株)、ローム(株)、(株)堀場製作所、三洋化成工業(株)、タキイ種苗(株)、(株)SCREENホールディングス、(株)村田製作所、武田薬品工業(株)京都薬用植物園
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>京都市科学系博物館等連絡協議会【26団体が加盟】</u> ⇒ 青少年科学センターが事務局となり、毎年、サイエンスフェスティバル等を開催
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>標本研究における連携</u> 大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館

● 未来のサイエンティスト養成事業 ※募集チラシの一部を抽出して掲載。体験コースは、秋冬(11月～1月)にも5講座(定員約150名)を実施。



未来のサイエンティスト

大募集!!

令和7年度

理科・科学好きな小中学生が、将来、自然科学分野を目指す際に役立つ基礎を身につけることを目的に実施している、未来のサイエンティスト養成事業の参加者を募集します！

探究コース

定員10名程度

青少年科学センター所員や大学・企業等の専門家の助言を受けながら、自分の関心のあるテーマを研究し、2月に開催する発表会で他の会員や保護者の前で研究成果を発表します。

さらに、8月に募集の「京都サイエンスコンテスト」に研究を出展し、日本学生科学賞や全国児童才能開発コンテストなどの全国コンテストの入賞を目指すなど、研究を深めましょう。

対象：京都市内在住又は市内の学校に通学する**小学5年生～中学3年生**の児童・生徒

選考：申込内容をもとに選考します。

結果通知：結果通知は応募者全員に書面にて御連絡します。発送は6月下旬予定。
(事業説明会を7月6日(日)に予定していますので会員になられた方は御参加ください。)

応募期限：令和7年6月12日(木)まで

その他：応募方法は裏面を御確認ください。



体験コース

定員200名程度

企業等による独自の技術を活かした実験教室に参加し、学校では体験できない科学の不思議さや面白さを実感して自分の研究テーマを探しましょう。

対象：京都市内在住又は市内の学校に通学する**小学4年生～中学3年生**の児童・生徒

抽選：申し込みがそれぞれの講座の定員を超える場合は、抽選にて参加者を決定します。

結果通知：結果通知は応募者全員に書面にて御連絡します(7月上旬予定)。

応募期限：令和7年6月22日(日)まで

その他：実施内容や応募方法は裏面を御確認ください。

※ 11月以降に秋冬講座を実施予定です。
秋冬講座の詳細が決定次第、体験コースにお申込みいただきました方に御案内します。

実施日	テーマ (実施者)	時間	対象	実施場所	定員
7月22日 (火)	研究者ってどんなことをしているの？ ～実験スタンプラリーに挑戦～ (ナカライテスク様)	10:00～12:00	小学生	科学センター	16名
		14:00～16:00			16名
	モーターと地球環境～わたしたちができること～ (ニデック様)	13:30～15:30	小学生	科学センター	40名
7月23日 (水)	自分だけの蚊取り線香を作ろう～蚊の不思議に迫る～ (京都市衛生環境研究所)	13:30～16:30	小学生	京都市衛生環境研究所	25名
	燃焼のふしぎ (大阪ガスネットワーク様)	10:00～11:15	小学生	科学センター	20名
		13:30～14:45			20名
環境科学教室～私たちの生活を科学の目で見直そう！～ (京都市衛生環境研究所)	13:30～15:00	中学生	京都市衛生環境研究所	20名	
7月24日 (木)	私たちと自然をつなぐ物質のめぐりを学ぶ (総合地球環境学研究所)	10:00～12:30	小・中学生	総合地球環境学研究所	20名
	下水処理の仕組みを学ぼう (京都市上下水道局 水質管理センター 水質第2課)	10:30～11:30	小学生	科学センター	15名
	電気エネルギーを考えよう (株式会社製作所)	10:30～12:00	小学生	科学センター	40名
		14:00～15:30			40名
水道水ができるまでのしくみ (京都市上下水道局 水質管理センター 水質第1課)	14:00～15:30	小学生	科学センター	15名	
7月25日 (金)	どきどきめっさ体験 (清水長金属工業様)	10:00～12:00	小学生	科学センター	20名
	島津ふんせき体験スクール(分光コース) (株式会社製作所)	9:30～12:00	小学生	島津製作所	10名
		13:30～16:00	中学生	島津製作所	10名
	「発酵」でつながる「生きものサイクル」 ～自然のチカラとヒトの技術～ (武田薬品工業株式会社京都薬用植物園・さすてな京都)	10:30～12:00	小学生	さすてな京都	36名
13:30～15:00		36名			
7月26日 (土)	「未来×エネルギー発明家体験」 さすてな京都で未来のエネルギーを探そう！ (株式会社エナジーホールディングス・さすてな京都)	9:30～12:30	小学生	さすてな京都	24名

● 青少年と科学の祭典 ※募集チラシの一部を抽出して掲載



科学センター 学習棟会場 Gエリア

- 1 3ステップでカラフルスライムをつくろう！
- 2 水の電気分解といろいろな電池
- 3 チタンに色をつけよう?!
- 4 ロボットで遊ぼう!!!
- 5 いろいろいろいろ2025 ~いろいろ本のふしぎ~
- 6 燃料電池をつくりましょう
- 7 水の中で絵が動く
- 8 ティララちゃんのキーホルダーづくり
- 9 マグヌストローのひみつ
- 10 火山灰から「宝石」を探そう
- 11 ミツバチの巣からろうそくを作ろう
- 12 チリモン図鑑を作ろう！
- 13 紫外線で光るかな？
- 14 光る！動く！ワクワク科学チャレンジ
- 15 CD盤でペンハムの独奏を作ろう
- 16 光る石をさがせ！
- 17 スポンジの不思議
- 18 マイコンでLEDをいろいろな色に光らせてみよう
- 19 かんたん！カラフル火山の大噴火
- 20 バスボムを作ろう！
- 21 ゆらゆらルーブ どっちがゆれる？
- 22 うずまきのコマを作ろう！

科学センター あおぞらデッキ会場

- 35 かならずもどるブーメラン飛行機！
- 36 風船ロケットを飛ばそう
- 37 ペットボトルロケットを飛ばそう！

京エコロジーセンター会場 ECエリア

- 38 ソーラークワガタでサッカーゲーム2025
- 39 科学工作と科学実験装置を体験してみよう！
- 40 プログラミング教室
- 41 1枚で2度ふしぎなカード!?
- 42 風倒木ブロック体験

科学センター展示場会場 QKエリア

- 43 「はかる」と「わかる」~はかる装置を体験しよう~
- 44 透明に変わる！ライトが光る！水の不思議な実験
- 45 風車を作ってみよう
- 46 地球環境カードゲーム「マイアース」体験会
- 47 どんな溶液が電気を通すのか？

科学センター展示場会場 IKエリア

- 48 電気をつかってみよう~LEDマジック実験~
- 49 さがしてみよう微小貝~小さな小さな貝の世界~
- 50 つかめる水を作ろう！
- 51 見えないものを見てみよう~顕微鏡で見るミクロの世界~

サイエンスライブステージ！ 交流のひろば

主催 「青少年のための科学の祭典」京都大会実行委員会
共催 公益財団法人日本科学技術振興財団／青少年と科学の会
後援 文部科学省／京都府教育委員会／京都市教育委員会／公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 京エコロジーセンター／日本物理教育学会近畿支部／京都理科学研究会／京都市立中学校教育研究会理科部／京都市立高等学校理科研究会／京都府小学校教育研究会理科部会／京都府中学校教育研究会理科部会／京都理化学協会／京都府私立中学校高等学校理科研究会／京都府生物教育会／京都地学教育研究会／全国科学館連携協議会／全国科学博物館協議会／NHK／日本物理教育学会／(一社)日本生物教育学会／日本地学教育学会／日本基礎化学教育学会／(一社)日本科学教育学会／(一社)日本理科教育学会／(一社)日本地質学会／(一社)日本生物物理学会／一般社団法人日本物理学会／(公社)応用物理学会／公益社団法人日本化学会／(一社)日本機械学会／(公社)日本アイソトープ協会／(一財)日本私学教育研究所／(公社)日本植物学会／(公社)日本動物学会／(公社)日本天文学会／(公社)日本工学会／(一社)電気学会／日本エネルギー環境教育学会／KBS 京都／エフエム京都／京都リビングエフエム／京都新聞／朝日新聞京都総局／産経新聞京都総局／毎日新聞京都支局／読売新聞京都総局／京都リビング新聞社／(順不同)
協賛 英興(株)／京都科学機器協会／京都電子工業(株)／三和化工(株)／(株)島津製作所／(株)堀場製作所／村田機械(株)／(株)GSユアサ

青少年科学センター、京エコロジーセンターに60の体験ブースが集結！2日間で約5,300名が来場されました！

● 企業と連携した最新の科学技術の体験イベント

広報資料

(教育・経済)

令和8年1月16日
青少年科学センター
(事業担当：642-1601)

muRata 村田製作所 × 京都市青少年科学センター

ふしぎな石ころ“echorb”の特殊な振動体験と未来を想像する ワークショップの実施について

株式会社村田製作所と京都市は、STEAM教育を通じて次世代を育成するパートナーとして連携し、京都の未来を担う子どもたちの社会の創り手として必要となる資質、能力を育成することを目的として、令和5年3月24日に包括連携協定を締結しました。この度、大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「Better Co-Being」でも活躍した、「ふしぎな石ころ“echorb (エコーブ)”」を体験し、未来を考えるワークショップを下記の通り実施します。

記

1 実施日時

令和8年2月11日(水・祝)

午前の部：11時～11時45分 午後の部：14時～14時45分

2 実施場所

京都市青少年科学センター 展示場2階 多目的室

※echorb (エコーブ) とは…

特別な振動で皮膚を刺激して、脳を
勘違いさせてしまう技術。本当に触っ
たような『手ごたえ』をいろんな形で
感じられるよ！

3 参加者及び定員

小学4～6年生 各回20名

(1月6日(火)～1月20日(火))に、京都いつでもコールにて参加者を募集。
多数の場合は抽選のうえ、参加者を決定。)



4 実施内容

- (1) 村田製作所から echorb の技術などについての講義
- (2) 参加者による echorb 体験
- (3) 未来での echorb の活用法など、アイデアを出し合い未来を想像するワークショップ

<京都市青少年科学センター>

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13

TEL075-642-1601 FAX075-642-1605

[休館日] 木曜日(祝日の場合は翌平日)

[開館時間] 9:00～17:00(入館は16:30まで)

ホームページはコチラの二次元コードから ⇒



料 金	小学生未満	小学生	中・高生	大 人
入場料	無料	100円(90円)	200円(180円)	520円(470円)
プラネタリウム観覧料	無料	100円(90円)	200円(180円)	520円(470円)
年間入場券(展示場のみ)	—	—	—	1,500円

※ プラネタリウムの観覧には入場料も必要。()内は30人以上の団体。

※ 土曜日と日曜日は、京都市内に住所または通学先がある小・中・高・総合支援学校・民族学校の児童・生徒の入場料及びプラネタリウム観覧料は無料です(祝日・振替休日は有料)。

● 令和8年度 京都市当初予算(案)

教育委員会予算の概要

1 予算編成に当たっての考え方

教育委員会では、一人一人の子どもを徹底的に大切にす本市教育理念の下、誰一人取り残されず、全ての子どもたちに、伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する力を育むための学校教育の充実と、まち全体を学びの場とする生涯学習のまちづくりに向け、市民ぐるみで取り組んでいる。

予測困難な社会の変化を柔軟に受け止めながら、グローバルに活躍する人材育成や、子ども、子育て世帯の複雑化・多様化する課題やニーズに対応するため、令和8年度は、本市ならではの英語教育、不登校児童生徒への支援、部活動地域展開・地域クラブ活動の充実に向けた取組や市立高校魅力化のほか、昨今の社会情勢を踏まえ、遠距離等通学費補助制度の拡充や、小学校給食無償化の実施等、保護者負担の更なる軽減にも取り組む予算を編成した。

また、京都基本構想や新京都戦略を踏まえ、京都のまちの強みを生かし、子どもの健全育成と地域の活性化の好循環を創出する学校を核とした地域づくりや、新しい図書館構想に向けた検討を一層推進するとともに、学校体育館空調の本格整備など環境充実を図る。

更に、教職員の働き方改革や学校等の環境整備にも、引き続きしっかりと取り組みながら、これまでの教育実践を礎に、更なる教育改革を推進し、子どもが安心して過ごせる居場所としての学校づくりと興味や関心を高め夢中になれる教育の実現、市民の生涯学習の機会の充実に向け取り組む。

(出典) 上：京都市情報館 令和8年度予算について 当初予算の概要 2所管別主要施策の概要
 右：京都市情報館 令和8年度予算について 事業概要 令和8年度予算案新規充実等事業概要

事務事業名	みんなであつむぐKYOTO科学ミライLUB(ラブ)
-------	---------------------------

【事業実施に至る経過・背景など】

京都市青少年科学センターでは、「京都ならではの STEAM 教育」の拠点としてふさわしい科学館への飛躍を目指して、今後の「使命」や「あるべき姿」、「果たすべき役割」等に関する調査研究を進めている。

令和7年度は、有識者等で構成する検討会議をはじめ、「まちびとよりあい〜京都でSTEAM〜」などの様々な立場の市民等が参加する対話の場を設定し、多様な御意見をいただきながら、議論を重ねている。令和8年度には、こうした議論の場で交わされた意見等を踏まえ、科学がよりよい未来を創るうえで必要不可欠であるという認識の下、STEAM 教育の特長である内発的動機を原動力とした知の深化・探索・創造を目的に、京都の「まち柄」を活かした取組を実施する。

【事業概要】

- 京都のまちの豊かな自然や生活文化等に息づく多様な「科学のタネ(以下、「推し」という)」をテーマに、「推し固有の学び場」と「推し同士の交わり場」を創設、運営し、「推し」を通じて人や知恵が交わり合う公共空間の形成を目指すプロジェクト「みんなであつむぐKYOTO 科学ミライ LUB※」に着手する。

※「LABORATORY」…「実験室」「研究室」「作業室」「開発室」

「HUB」…「科学教育のHUB」「科学以外のHUBとの接続」など「関係性の結節点」

「FABRICATION」…「ものづくり」「事物の結合関係を決定する物理的な仕組みや機構」

- 「推し固有の学び場」(テーマ別の学びの場)

石・星・植物など特定の「推し」に関するテーマに関心を持つ方々が、川・天文台など当該テーマにゆかりのある場所に集い、観察活動や対話を行う場を創設する。参加者間の関係性が育まれるとともに、テーマに関する知恵が深化することを目指す。

- 「推し同士の交わり場」(多様なテーマの交流の場)

「科学教育のテーマコミュニティ HUB」である科学センターにおいて、多様な「推し」に関心を持つ方々が一堂に会し、観察活動や対話を行う場を創設する。「推し固有の学び場」同士が交わり合うことで、参加者間の関係性が育まれるとともに、領域を横断した新たな知恵が深化することを目指す。

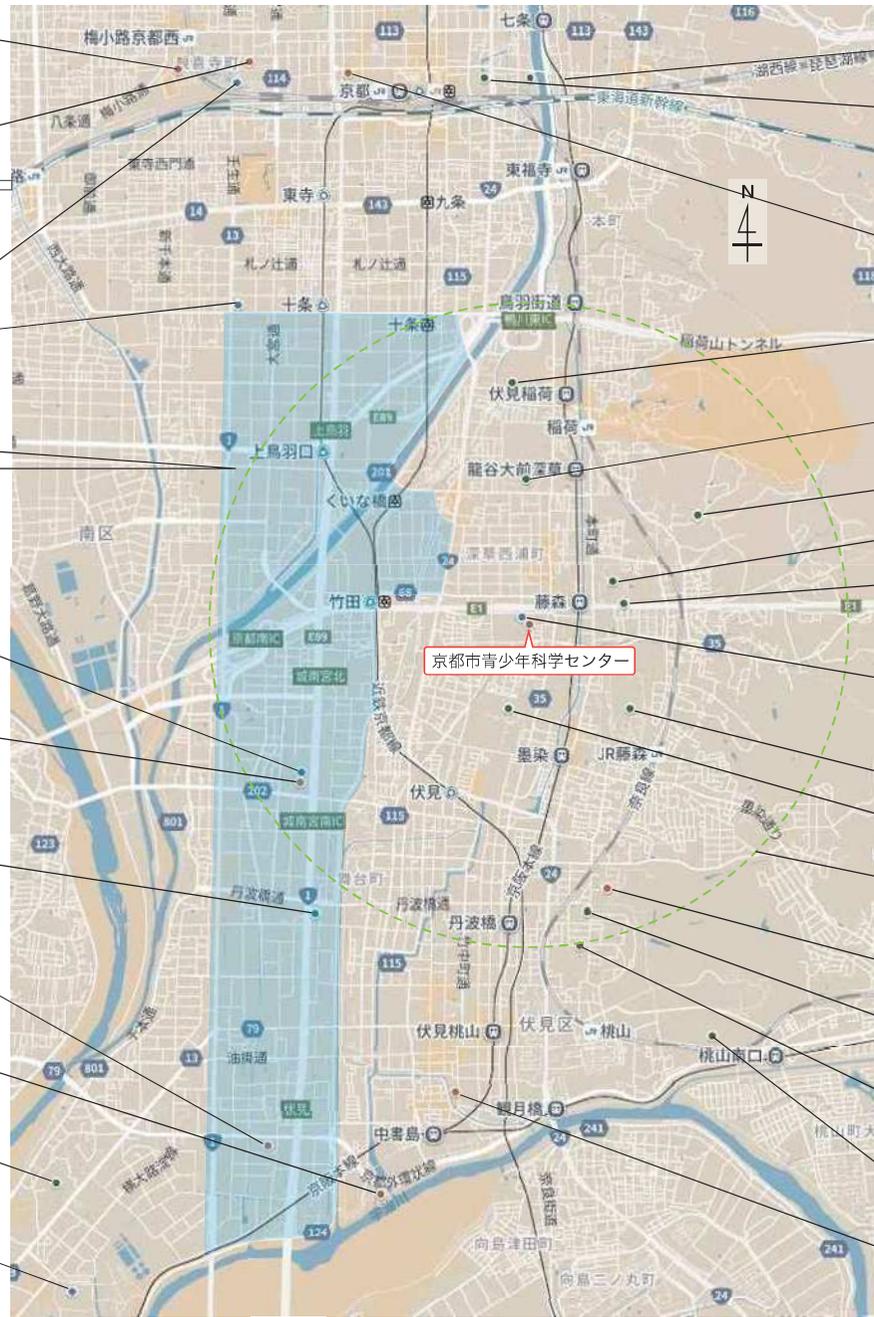
※「テーマコミュニティ HUB」…複数の「推し」に共通するテーマを掲げた交流の場

- 上記事業は、当センターの既存事業も組み入れて推進するとともに、年間を通した事業全体における課題の特定、改善策の提示、改善策の実施支援、評価に関する調査研究も同時に行い、その成果を更なる飛躍に向けた基盤整備に生かす。

● 京都市青少年科学センター付近の施設情報（主な高校・大学／公共施設／博物館施設）

さらに北には、「ものづくり」、「食」、「アート」が集うクリエイティブエリアが広がる。

■らくなん進都
 京都駅南の概ね十条通りから南は宇治川までの6km、東は東高瀬川、西は国道1号に囲まれた油小路沿道を中心とした地域の「新しい京都を発信するものづくりの拠点」としてまちづくりを進めており、最先端の技術をもった企業がたくさん立地しています。
 [らくなん進都タウンマップより抜粋]



- 京都鉄道博物館
- 京都水族館
- 至大阪 ←
- 梅小路公園
- 京都市市民防災センター
- 京都パルスプラザ
- 京セラギャラリー・京セラファインセラミック館
- 京都市成長産業創造センター（ACT 京都）
- 朝日新聞京都工場
- 三栖閘門資料館
- 京都府立洛水高等学校
- 京都市南部クリーンセンター（さすてな京都）

- 京都市立美術工芸高等学校
- 京都市立芸術大学
- 至大津 →
- オムロン コミュニケーションプラザ
- 京都市立京都奏和高等学校
- 龍谷大学 深草キャンパス
- 京都市立京都工学院高等学校
- 京都聖母学院中学校・高等学校
- テンブル大学ジャパンキャンパス京都
- 京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）
- 京都教育大学（教育資料館）
- 京都教育大学附属高等学校
- 青少年科学センターから2km圏内（徒歩圏内）
- 森林総合研究所関西支所（森の展示館）
- 京都市立呉竹総合支援学校
- 京都府立桃山高等学校
- 京都橘中学校・高等学校
- 月桂冠大倉記念館

- 高校・大学
- 博物館施設
- 公共施設

注）博物館施設については、京都市内博物館施設連携協議会に加盟する館のうち科学技術に関連の強いものを掲載しています。

名称	概要	ページ
一般財団法人 私立新留小学校設立準備財団	コモンズである学び場を起点とした地域コミュニティ・経済・文化の再生	2
ミネルバ大学	特定の場所に依存しない、世界巡回型の学び	3
神山まると高専	「テクノロジー×デザイン×起業家精神」で地域課題と社会実装を結ぶ高等専門学校	4
Oodi Helsinki Central Library	多機能を複合した公共施設、諸施設との共存による賑わいエリアの形成	5
タテノイト	豊かな自然との共生による探究型教育	6
VIVISTOP	テクノロジーやアートを活用しながら「ともに作り、ともに学ぶ」国際的ネットワーク	7
千代田区 公園基本方針2025+公園リニューアル	分散配置（特色化）とネットワーク形成（連携）による全体機能の体系化	8
THE LIVING ROOM / Nomcraft Brewing	地域ならではの魅力を核に人が集い、語らい、文化を発信する地域共創の空間	9
福岡市科学館	大学との連携を重視する都市型の科学館（商業施設と複合した日常導線上の科学館）	10
探究「シブヤ未来科」	学びは広がる、渋谷から世界へ。まちの全てを教室に変える探究	11

コモンズである学び場を起点とした地域コミュニティ・経済・文化の再生

一般財団法人 私立新留小学校設立準備財団

<参照>

・私立 新留小学校設立準備財団(公式)

<https://note.com/niidome>

・ソーシャルビジネス支援基金「一般財団法人私立新留小学校設立準備財団」

<https://shinrai.or.jp/sb-funds/sb-funds-0001/>

一般財団法人私立新留小学校設立準備財団は、鹿児島県始良市の廃校を舞台に、2027年開校を目指す新しい私立小学校づくりを進めている。「学校は地域のハブでありコモン（共有地）である」という考え方のもと、学び場を起点に地域コミュニティ・経済・文化を再生するモデルを掲げている。

学校を単なる教育施設ではなく、地域の人々が集い、関わり、未来を共創する公共拠点として再定義している。



特徴①

“ふつうの学校”を地域資源でつくる



特別な教育メソッドや特別なプレイヤーの存在に依存せず、その土地の人材・環境・文化を活かして学校づくりを行う。「ふつう」を問い直しながら、児童・教員・地域住民にとって居心地がよく、学びが深まる学校像を探究し、そのプロセスを全国へ発信していく。

特徴②

学び場から広がる地域共創エコシステム



学校空間を地域に開き、地元生産者と連携した給食、開放型ランチルーム・ライブラリーをつかっていく。学び場を中心に「半径300m・3km・30km」へと人・経済・文化の循環を生み出す地域共創モデルを構築。

特徴③

“再校”ネットワークによる社会システム変革



新留小学校の設立と並行し、全国の行政・企業・研究者・教育関係者・子どもたちとの対話を通じて「学校と地域のあたりまえ」を問い直すシステムチェンジを探究。学び場を起点に地域エコシステムを再生する概念「再校」を掲げ、廃校再生にとどまらず、廃校前段階の公立学校の変容も視野に入れた1000校規模のネットワーク形成を進め、地域共創型の学びとまちづくりモデルを各地へ展開している。

特定の場所に依存しない、世界巡回型の学び ミネルバ大学

ミネルバ大学は、オンライン学習と世界巡回型キャンパスを組み合わせ、従来の「固定された大学」という前提を解体した革新的高等教育機関である。教室・キャンパス・国境に依存せず、都市・地域・オンラインを横断して学びを設計することで、教育を「特定の場で受けるもの」から「世界と関わりながら実践するもの」へと再定義している。

国際的大学排名「WURI (The World University Rankings for Innovation)」において、国連教育関係機関 (UNITAR) らがパートナーとして参画する評価枠組みのもと、「世界で最も革新的な大学」として選出されている。2025年からは日本拠点を設立し、日本の大学・企業・地域と連携した課題解決型学習を展開する予定である。

<参照>

・ミネルバ大学 公式HP
<https://www.minerva.edu/>

・日本財団HP「ミネルバ大学の日本拠点設立日本の高等教育の現場に刺激を」
<https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/minerva>



※画像引用 左：日本財団HP
「ミネルバ大学の日本拠点設立日本の高等教育の現場に刺激を」
<https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/minerva>



※画像引用 右：日本財団HP
「米ミネルバ大・長期滞在拠点が日本へ来日した2年生・125人を迎えた開校セレモニー」
<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2025/20250905-115533.html>

特徴①

オンライン×対話中心の学習プラットフォーム



独自のオンライン授業システムにより、世界中どこからでも少人数・対話型の授業を実施。知識伝達型ではなく、思考・議論・表現を重視した学習設計により、探究的・教科横断的な学びを実現している。

※画像引用：ミネルバ大学 公式HP
<https://www.minerva.edu/>

特徴②

世界7都市を巡るローテーション型キャンパス



在学4年間で世界各都市に滞在し、現地の企業・行政・研究機関と協働するプロジェクト学習を実施。都市そのものを「教室」として活用し、社会課題に実践的に取り組む学習モデルを構築している。

※画像引用：ミネルバ大学 公式HP
<https://www.minerva.edu/>

特徴③

日本拠点によるローカル×グローバル接続



2025年以降、日本拠点を設立し、日本の大学・地域・企業と連携した課題解決型プログラムを展開。世界各国の学生と日本の学生が共に学び、日本の社会課題をグローバル視点で探究する新しい高等教育モデルを形成している。

※画像引用：日本財団HP「ミネルバ大学と包括連携協定を締結世界で最も革新的な大学 新たな拠点が日本に誕生」
<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2025/20250905-115533.html>

「テクノロジー×デザイン×起業家精神」で地域課題と社会実装を結ぶ高等専門学校 神山まるごと高専

神山まるごと高専は、徳島県神山町に2023年に開校した5年制の私立高等専門学校で、「テクノロジー×デザイン×起業家精神」を基盤に据えた革新的な高等教育モデルである。地域そのものを学び・生活・実践のフィールドとして捉え、課題発見から価値創造までを自ら設計・実行する力を育成する。

学校は全寮制で全国から学生を受け入れ、地元企業家や農家を講師・メンターとして迎えることで、地域課題と社会実装を結ぶ学びを提供している。さらに「100年続く応援歌を」という学校側の依頼により、作詞をUA、作曲を坂本龍一、編曲を網守将平が手がけた校歌を制作し、学校文化そのものを未来志向の学びの理念として体现している。



特徴① 三位一体の実践型カリキュラム



「テクノロジー・デザイン・起業家精神」の三本柱を教育の中心に据え、基礎知識に加えてプログラミング、UI/UXデザイン、プロトタイピング、課題解決やリーダーシップといった実践的スキルを横断的に学ぶカリキュラムを提供する。学生は自ら課題を発見し、モノをつくりながら社会に働きかける力を身につける設計になっている。

特徴② 地域密着・体験重視の学び場としての環境



徳島・神山町の豊かな自然の中にキャンパスと寮を構え、町全体を学びと生活の場として活用することで、地域との接点を日常的に持ちながら学べる環境を実現している。また、地元企業や農家などを講師・メンターとして迎え、地域課題の実践的な解決と密接に関わる機会を提供している。

特徴③ 産業創出につながる実践型教育モデル



全寮制の学びと地域・企業との共創を通じて、「つくる力で社会を動かす人材」の育成を目指す。学校運営そのものを共創プロジェクトとして設計し、学びの体験が産業創出や社会実装へと直結する仕組みを備える。学校づくり自体が学びとなる教育モデルとして評価されている。

多機能を複合した公共施設、諸施設との共存による賑わいエリアの形成

Oodi Helsinki Central Library

Oodi（ヘルシンキ中央図書館）は、ヘルシンキ中心部カンサライストリ広場に位置する都市型公共図書館であり、市民が自由に集い、学び、働き、くつろぐための非営利の公共空間として設計されている。国会議事堂の正面に立地し、大規模緑地を取り囲むように、音楽センター・美術館・メディア施設が集積する文化・メディアハブを補完する存在として、都市の知的・文化的中核を形成している。

Oodiは「本を借りる図書館」ではなく、知識や新しいスキル、物語との出会いを提供し、学習・制作・仕事・リラクゼーションまでを包摂する“新しい時代の図書館”を掲げる。すべての人に開かれた、生き生きとした出会いと創造の場として、市民の日常に溶け込む学びのインフラを実現している。



特徴 ①

生活・学び・創造が交差する複合公共空間



Oodiは従来の書架主体の図書館空間とは異なり、1階にはカフェや映画館、イベントスペース、会議室などを配置し、3階建ての各階が日常的な交流・憩い・創造の場として機能している。本の貸出は全体の一部にすぎず、市民が自発的に過ごしたくなる“都市のリビングルーム”として設計されている。

特徴 ②

創造・制作・デジタル技術の実践空間



館内には3Dプリンタやレーザー加工機、デジタル制作設備を備えたファブスペースやスタジオがあり、利用者は自由に制作・学習・創造活動に取り組める。このような制作系ワークショップ空間は、作品づくりやプロトタイプ制作など、創造的なプロセスを促す実践的な学びのサポートとなっている。

特徴 ③

緑地を中心に文化・行政・メディア機能が集積



Oodiは国会議事堂の向かいにあり、周辺にはヘルシンキ・ミュージックセンター、フィンランディアホール、現代美術館Kiasma、Sanoma Houseなどが集まる文化・メディアのハブの一角として位置づけられている。公園（緑）を核に、複数施設が徒歩圏で連続する「複合エリア」となっている。

豊かな自然との共生による探究型教育

タテノイト

<参照>

・タテノイト 公式HP
<https://tatenoito.jp/>

・KIDS DESIGN AWAED 「タテノイト」
https://kidsdesignaward.jp/search/detail_210437?utm_source=chatgpt.com

タテノイトは、埼玉県秩父郡横瀬町を拠点にした幼児～小中学生向けの学びの場で、地球惑星科学研究者であった夫婦が創設した教育実践施設である。

既存の学校教育の枠にとらわれず、子どもたちの「なんだろう？」という探究心を起点に、自然体験・本との出会い・多様な大人との関わりを統合した学びを提供している。築年のある町工場を改修した空間や森のフィールドを活用し、子どもが自ら問いを立て、選び・動き・つくるプロセスを伴走する教育スタイルを実践している。自然体験と知的活動の往復によって深い理解と自律的な探究力を育む教育モデルとして評価され、キッズデザイン賞を受賞している。



特徴①

問いを起点にする探究型教育の設計



タテノイトでは、子たちも一緒にミーティングを実施。子どもたち自身の「やってみたい!」「なんだろう?」という問いを出発点に学びを組み立てる。教科・学年の枠にとらわれず、自然観察・実験・読書・プロジェクト活動を行い、子どもたちが自ら問いを深め、表現や発展につなげる学びを支援している。

特徴②

自然にふれて学びが芽吹く学習環境



豊かな自然環境をフィールドに、森や屋外活動が学びの核心に置かれている。また、さまざまな職業や背景を持つ大人たちとの関わりを通して、子どもたちは多角的な価値観や未来の選択肢に触れ、学びを深めていく。

特徴③

異年齢が共に探究する学びのコミュニティ



タテノイトは幼児部と小中学部が同じ理念と空間を共有し、年齢を超えた関わりが自然に生まれる設計となっている。異年齢での探究やプロジェクトを通じて、互いに刺激し合いながら育ち合う学びの文化を形成している。

テクノロジーやアートを活用しながら「ともに作り、ともに学ぶ」国際的ネットワーク

VIVISTOP

VIVISTOPは、子どもや若者が手を動かし、考え、表現することを通じて、自らの創造性を伸ばすための共創型学びの場である。

2024年現在、世界7カ国に11カ所（日本、エストニア、リトアニア、フィリピン、シンガポール、アメリカなど）に展開しており、プロの支援を受けながら自由にプロジェクトを立ち上げ、試行錯誤できる制作スペースとして機能している。日本国内の代表例である「VIVISTOP NITOBE」は、学校法人新渡戸文化学園内に設置された共創空間で、平日は主に中高生の探究学習・授業と連動したクリエイティブ活動を支え、土曜には地域の子ども・保護者も参加できるオープンスペースとして機能している。多様な素材・機材・人材が開かれ、創造と協働のプロセスが日常化する新しい学びの拠点である。



※画像引用：VIVISTOP NITOBE公式HP
<https://nitobebunka.ac.jp/vivistop/>

<参照>

・VIVITA 公式HP
<https://vivita.jp/>

・VIVISTOP NITOBE公式HP
<https://nitobebunka.ac.jp/vivistop/>

特徴①

自由に試せる“つくる”学びの空間



VIVISTOPは、子どもや若者が自分の興味からプロジェクトを立ち上げ、試行錯誤しながら形にできる制作空間である。多様な素材やデジタル機材が開かれ、カリキュラムに縛られない自由な創造活動が日常化している。

特徴②

子どもと大人が対等に共創する文化



VIVISTOPでは、大人が教える・子どもが学ぶという関係ではなく、互いの考えや思いを持ち寄り、共にプロトタイプをつくるフラットな共創関係を育てている。VIVITA BOOKSプロジェクトのように、対話から生まれた気づきを本づくりで表現し、作品展へと展開する実践は、子どもの声を社会へひらく試みとなっている。

特徴③

世界につながるグローバル共創ネットワーク



VIVITAは世界7カ国・11拠点のVIVISTOPが連携するグローバルコミュニティを形成している。各拠点は独立運営でありながら互いの実践を共有し学び合い、子どもたちは地域を超えて多様な大人や文化とつながる機会を得ている。

分散配置（特色化）とネットワーク形成（連携）による全体機能の体系化

千代田区 公園基本方針2025 + 公園リニューアル

< 参照 >

・2025 グッドデザイン金賞「千代田区公園基本方針2025 + 公園リニューアル」
https://www.g-mark.org/gallery/winners/32234?text=Kokusai_kogyo

・千代田区HP：千代田区公園づくり基本方針（令和7年3月改定）
<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/koen/koenzukuri-kihonhoshin.html>

千代田区は、区内に点在する58か所の公園を「個別施設」ではなく、全体としての“公園ネットワーク”として捉え直す基本方針とリニューアル計画を策定した。公園ごとに備えるべき「共通機能」と、立地や規模に応じて強化すべき「特色ある機能」を整理し、地区内の利用ニーズに合わせて公園同士が役割分担する体系を構築している。

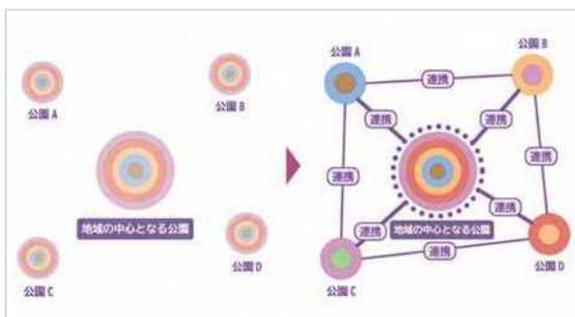
また、花火遊びやボール遊び、じゃぶじゃぶ池など多様な利用形態を受け入れる“柔軟で生活者に寄り添う空間”を積極的に整備することで、公園の利用価値を高めることを狙っている。この一連の取り組みが2025年度グッドデザイン金賞に選ばれ、行政が俯瞰的に公園機能を設計したモデルケースとして評価された。



※画像引用 左/右：千代田区HP：千代田区公園づくり基本方針（令和7年3月改定）
<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/koen/koenzukuri-kihonhoshin.html>

特徴①

公園全体の機能を体系化する設計思考



千代田区は、すべての公園に共通する基本的な機能と、公園ごとの特色を持たせるべき機能を明確に分類し、「公園機能マップ」として体系化した。これにより、単一公園ごとの個性だけでなく、「地区内の公園が互いを補完し合う機能分担」を実現し、限られた都市空間で多様な利用ニーズを満たすことを可能にしている。

※画像引用 左/右：千代田区HP：千代田区公園づくり基本方針（令和7年3月改定）
<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/machizukuri/koen/koenzukuri-kihonhoshin.html>
※画像引用 中央：2025 グッドデザイン金賞「千代田区公園基本方針2025 + 公園リニューアル」
https://www.g-mark.org/gallery/winners/32234?text=Kokusai_kogyo

特徴②

多様な利用を受け入れる柔軟性と生活者視点



従来の「画一的な遊び場」から脱却し、時間帯や利用者の目的に応じた多様なアクティビティを受け入れる設計が進められている。例えば、都市部では禁止されがちな花火遊びの導入や、スケートパーク、ドッグラン、じゃぶじゃぶ池、ボール遊びなど、生活者の現実的なニーズに応える柔軟な活用設計が取り入れられている。

特徴③

公園をまちづくりの中核に据える地域共創戦略



単に遊具や緑地を整備するだけではなく、住民アンケートやヒアリング調査をもとに基本方針を策定し、地域の要望を反映しながら更新を進めている。地区内の公園をネットワークとして活かす発想は、都市の居心地のよい共有空間（コモンスペース）を育む戦略であり、公園を地域活動や交流の中核として位置づけ、まち全体の生活価値を向上させている。

〈参照〉

・ Nomcraft Brewing公式HP

<https://nomcraft.beer/>

・ 有田川町移住・交流促進サイト「ぼくらが住むまち有田川町流！住民主体のまちづくり」

<https://www.town.aridagawa.lg.jp/ijuu/tokusei/5671.html>

・ GOLDEN RIVER 公式HP

<https://golden-river.jp/index.html>

地域ならではの魅力を核に人が集い、語らい、文化を発信する地域共創の空間

THE LIVING ROOM / Nomcraft Brewing

THE LIVING ROOM は、和歌山県有田郡有田川町の旧・田殿保育所をリノベーションして生まれた複合型コミュニティ施設である。

有田川町が推進する地方創生プロジェクト「～有田川という未来～ ARIDAGAWA2040」の一環として、地域住民や外部プレイヤーが主体的にまちの未来像を描き実装する場として設計された。

施設内には、クラフトビール醸造所 Nomcraft Brewing が入居し、隣接するブルーパブ GOLDEN RIVER やゲストハウス TADONO the bedroom など地域交流機能が連続する空間を形成している。「クラフトビールでまちづくり」のビジョンを掲げ、ビールを通じて人々が集い、語らい、地域の魅力を発信する新しい地域拠点として機能している。



※画像引用：Nomcraft Brewing公式HP
<https://nomcraft.beer/>

特徴①

クラフトビールを核にした地域共創の場



Nomcraft Brewing は、有田川町の地方創生プロジェクトと連動し、旧保育所跡を活用した醸造所として設立された。国際色豊かなスタッフによるホップ主体のアメリカンスタイルや地域素材を取り入れたビールを醸造し、地元住民や来訪者を巻き込むコミュニティの核となっている。醸造所に隣接するブルーパブ「GOLDEN RIVER」では、できたてのクラフトビールを提供し、交流の場となっている。

※画像引用 左/中央：GOLDEN RIVER 公式HP <https://golden-river.jp/index.html>

特徴②

複合的体験をつなぐ滞在・交流空間



THE LIVING ROOM は、クラフトビールだけでなく、宿泊施設（TADONO the bedroom）、カフェ・食事空間、ショップ等が一体となった複合空間であり、滞在・体験・交流を一連の流れとして提供することで、地域内外からの訪問価値を高めている。飲食や宿泊だけでなく、旧保育所の教室を活用した多様な用途が生まれることで、居心地のよい滞在・交流の場を演出している。

特徴③

地方創生のシンボルとなる文化発信



Nomcraft Brewing の誕生は単なる醸造所設立にとどまらず、有田川町が抱える「消滅可能性都市」という課題に対して、住民主体のまちづくりプロジェクトから生まれたものである。ポートランド市のまちづくりを手本として外部専門家とも連携しながら進められ、クラフトビールの製造・提供を通じて地域の魅力を内外に発信する役割を担っている。

※画像引用 右：Nomcraft Brewing公式HP <https://nomcraft.beer/>

大学との連携を重視する都市型の科学館（商業施設と複合した日常導線上の科学館）

福岡市科学館

<参照>
・福岡市科学館HP

<https://www.fukuokacity-kagakukan.jp/>

福岡市科学館は、子どもも大人も誰もが科学を楽しむことのできる科学館であり、「人が育つ」科学館である。

基本展示室では身近な題材に溢れ、まず体験することから始まる。ドームシアターでは、臨場感溢れる映像が楽しめ、コンサートなども開催される。サイエンスショーなども数多く催され、いつ来ても、誰もが科学を楽しむことができる。

科学をより深く学びたい人には、それぞれの興味・関心にあった多彩なプログラムが用意されており、また科学を深掘りできるシステムも備えられている。これらを通し、楽しみから疑問・探求を経由して、クリエイティブな力へと発展させることができる。さらに、科学者・クリエイターを含めた多様な人が交流する場を設定するなど、様々な育つ工夫が仕掛けられている。



※画像引用 左/右：福岡市科学館 公式HP <https://www.fukuokacity-kagakukan.jp/>

特徴① 九州大学との連携・共同研究



九州大学の科学の専門家（九州大学教員と大学院生）、デザインの専門家（九州大学芸術工学院の教員と大学院生）、コミュニケーションの専門家（科学館のサイエンスコミュニケーター）が共に考え開発した『ジュニア科学者養成講座』を開講。

特徴② 商業施設と複合した都市型の科学館



福岡市科学館は、地区の再開発により誕生した複合施設「六本松421」内に整備された都市型科学館である。地下鉄から徒歩すぐの立地にあり、商業施設・飲食店・生活サービスと連続した動線上に配置されることで、買い物や通勤・通学の合間に気軽に立ち寄れる“日常動線上の科学館”を実現している。

特徴③ 協働による多彩なプログラムの充実



九州大学をはじめ様々な教育・研究機関や専門家、企業や団体、クリエイターと連携し、多彩な科学館プログラムを展開。多彩な人材の交流と協働による新しいサイエンスコミュニケーションのあり方を提案している。

学びは広がる、渋谷から世界へ。まちの全てを教室に変える探究

探究「シブヤ未来科」

東京都渋谷区立の小中学校（小3～中3）では、2024年度から文部科学省の授業時数特例校制度を活用して、総合的な学習の時間を約2倍に増やし、週4～5コマで、独自の探究「シブヤ未来科」に取り組んでいる。

シブヤ未来科は、「正解のない問い」に向き合う探究学習を軸に、地域・企業・大学・クリエイターなどと連携しながら学びを進める教育プログラムである。

教室にとどまらず、まち全体を探究の場として、社会課題や未来の都市像をテーマにプロジェクト型学習を行う点が特徴である。地域や企業とコラボレーションしながら、学校教育と実社会を接続し、「知識の習得」だけでなく「問いを立て、対話し、行動する力」を育てる新しい学習モデルとして注目されている。

<参照>

- ・渋谷区公式HP「探究 シブヤ未来科の取り組みを紹介します」
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/contents/koho-news/1577/20250515_special_mini.html
- ・探究 シブヤ未来科 ポータル
<https://tankyu-shibuya.com/>



※画像引用：探究 シブヤ未来科 ポータル
<https://tankyu-shibuya.com/>

特徴① 都市全体を学びのフィールドにする設計



渋谷の街、企業、公共空間、文化施設などを学習資源として活用し、教室外へと学びを拡張している。都市環境そのものを教材とすることで、現実社会と直結した探究活動が可能となり、学びと生活の境界が曖昧になる設計がなされている。

特徴② 多様な大人・組織との共創型学習



企業、大学、NPO、クリエイターなど外部人材が授業に関わり、子どもたちは専門家との対話や協働を通じて課題解決に取り組む。教師が一方向的に教えるのではなく、伴走者として学びを支える構造がつけられている点が特徴である。

特徴③ 学校と外部セクターをつなぐ仕組みの設計



学校（探究テーマ）と企業・大学・NPO・クリエイターなどの外部セクターをつなぐためのポータルサイトが整備されている。外部セクター側は協力登録制度を通じて活動内容や提供可能な学習機会を掲載でき、学校側はテーマや課題に応じて連携先を検索・相談できる仕組みとなっている。

本資料は、2050年の未来を見据えた今後25年間の京都市政の基本方針である「京都基本構想」、その理念を具体化する最重要施策の一つとなる「京都学藝衆構想」に関する概要を示した京都市長記者会見資料（2025年12月12日）の一部を抜粋したものです。

はじめに ～京都基本構想策定の背景～

「都市の理想」の必要性...

- 世界の現状 … さまざまな変化が生じ、複雑化の一途を辿っている

<変化の例>

- ・ 経済合理性の追究とそれに伴う人間的な営みの衰退、AIをはじめとする技術革新
- ・ 気候変動の影響の顕在化、自然災害の激甚化
- ・ 社会的分断の顕在化、戦争・紛争の発生と継続 など

- 京都の現状 … 本物（ほんまもん）が失われてしまう危機すら感じられる状況になっている

<失われつつある本物（ほんまもん）の例>

- ・ 伝統を保全・継承する担い手
- ・ 伝統的な町並み
- ・ 京都ならではの生業のあり方
- ・ 生活文化や神事 など

「どういうまちでありたいか」という「理想」を持つことが一層重要に

世界文化自由都市宣言に立ち返り、「都市の理想」を示していく

- 京都のまちの理想とは？ = これからも京都であり続けること
そのためには...

- ・ 先人たちが紡いできた京都の「価値」を改めて共有し、
- ・ その「価値」を後世に伝え遺していくことが必要

「京都基本構想」 を策定

京都基本構想の策定経過



1 幅広い市民参加の下での策定



2 総合計画審議会 未来共創チーム会議の提言や市内外からの意見をもとに審議し、構想案を答申いただいた。

(1) 委員 (◎…会長、○…副会長、☆…特別委員 (起草者 ※未来共創チーム会議特別委員を兼務) ※五十音順、敬称略、令和7年12月現在)

赤松 玉女	京都市立芸術大学名誉教授	○ 曾我 謙悟	京都大学公共政策大学院院長	藤野 敦子	京都産業大学副学長・現代社会学部教授
○ 安保 千秋	弁護士	高屋 宏章	社会福祉法人京都市社会福祉協議会会長	プラー ポンキワラシン	市民公募委員
小川 さやか	学校法人立命館副総長/ 立命館大学大学院先端総合学術研究科教授	田中 成美	市民公募委員	堀場 厚	京都商工会議所会頭
榎田 隆之	一般社団法人京都経済同友会代表幹事	貫名 涼	京都大学地球環境学学助	牧 紀男	京都大学防災研究所教授
阪部 すみと	Tsunagaryオフィス合同会社最高執行責任者	濱崎 加奈子	公益財団法人有斐斎弘道館館長/ 京都府立大学農学食科学部准教授	松井 道宣	一般社団法人京都府医師会会長
杉田 真理子	一般社団法人for Cities共同代表/ 都市デザイナー	原 敏之	日本労働組合総連合会京都府連合会会長	◎ 宗田 好史	関西国際大学国際コミュニケーション学部教授/ 京都府立大学名誉教授
鈴鹿 可奈子	株式会社聖護院ハッ橋総本店代表取締役社長	福富 昌城	花園大学社会福祉学部長		
☆ 野村 将揮	ハーバード大学デザイン大学院 / (一社) 京都哲学研究所 Executive Advisor兼Chief Strategist/ Yamauchi No.10 Family Office Executive Advisor/京都大学成長戦略本部				

(2) 審議会において重視された想いや考え方

- ① まちの名前を伏せても、京都の構想であることが分かるような、**京都にしかないまちの価値観を示すもの**にする
- ② この価値観は、先人たちの**日々の暮らし**の中で**育み、大切に継承**されてきた**普遍的なもの**
- ③ この価値観は、**京都が京都であり続けるために**、構想の期間である25年を超えて、**100年、200年先**にも伝えていく

3 未来共創チーム会議

京都市の価値や強み、直面しうる課題、今後どのようなまちをめざすべきかについて議論いただき、提言としてとりまとめ、総合計画審議会に報告いただいた。また、基本構想策定後の周知・浸透に係る議論も行っていた。

(1) 委員 (五十音順、敬称略、令和7年12月現在)

池坊 専宗	華道家・写真家	大竹 莉瑚	市民公募委員	都地 耕喜	EVER株式会社 代表取締役
伊住 禮次朗	茶道総合資料館副館長	杉田 真理子	一般社団法人for Cities共同代表/ 都市デザイナー	仲田 匡志	株式会社SOU 代表取締役/ U35-KYOTO プロジェクトマネージャー
大井 葉月	京都市職員 (産業観光局)	田口 成人	京都市職員 (都市計画局)	三川 夏代	株式会社メルカリ 『mercari R4D』

(2) これからの25年、京都のまちづくりにあたって大切にしたい思想・価値観 (審議会への提言)

- ① 弱いつながりもデザインした「0.1市民」を数多く作っていく
薄くつながる人々や人以外とも関係性を創り、彼らも京都の**まちを創っていく主体**として捉えてもいいのではないか
- ② 京都市民に解釈・行動を委ねる“無計画さ”や“余白”も大切
自ら考え、行動していくためには、**多様な価値観**を認め合い、それを受け止める**「余白」**がビジョンから感じられると良いのではないか
- ③ 脱成長・脱競争の社会へ。ベストだけでなくベターも認める
高いよりも程よく、速いよりも丁寧に、完成よりも未完・終わりがなく、競うよりもそれぞれの時に混ざりあう、といった**一元的ではない目線**を持つことが必要ではないか
- ④ 誰もが“育む・支える”まなざしを持つ
ビジョンでは、特にこれからを生きる**若者、子どもたち**や**弱い立場の人**の視点が大切ではないか
- ⑤ 超長期目線で考える
未来は今と過去の積み重ねであり、1000年前から紡がれてきた**京都独自の価値観に立ち戻る**ことが大切なのではないか。

「都市は、理想を必要とする」という一文に始まる、京都市の最上位の都市理念

都市は、理想を必要とする。その理想が **世界の現状の正しい認識** と **自己の伝統の深い省察** の上に立ち、**市民がその実現に努力** するならば、その都市は 世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市 をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わること によって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市 でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすえるべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ること静かに決意して、これを誓うものである。

序文

基本構想に通底している京都独自の3つの価値を示す。

第一章 京都基本構想策定の背景

時勢が複雑化の一途を辿る中で、世界文化自由都市宣言が掲げる「都市の理想」にいま一度立ち返り、京都市とわたしたち京都市民の今後四半世紀の在り方を展望するものとして、本基本構想を策定することを示す。

第二章 京都のかたち（※ 世界文化自由都市宣言の「自己の伝統の深い省察」に対応）

序文で示す3つの価値が生まれた背景、歴史的経過を示したうえで、それがいまを生きるわたしたち京都市民の暮らしの中に受け継がれていることを示す。

第三章 世界・日本・京都市のいまと未来への課題（※ 世界文化自由都市宣言の「世界の現状の正しい認識」に対応）

世界、日本そして京都市が直面している、またこれから表面化しうる課題や危機等を示す。

第四章 わたしたち京都市民がめざすまち

序文で示す価値を未来に受け継いでいくため、3つの価値に紐づける形で、9つのめざすまちの将来像を描いている。

第五章 京都を生きるわたしたちのこれから（※ 世界文化自由都市宣言の「理想の実現に向けた市民の努力」に対応）

このまちで日々の暮らしを営む京都市民はもちろん、京都市とさまざまな関わり方を有する方々も広く「わたしたち京都市民」として捉え、そうした人々と事業者や団体、行政、市会とともに、これからのまちの基盤を築いていくことを示している。

1 京都が未来に受け継いでいくべき3つの価値（序文）

人には人柄があり、国には国柄があるように、まちには「**まち柄**」がある。
「まち柄」とは、そのまちが長い歴史の中で大切に育み、伝え遺してきた価値

○ 京都の「まち柄」とは、**歴史と文化、自然との共生、人とのつながり**の3つ

① **歴史と文化から、人としての豊かさを見つめ直していく**

（歴史と文化を介して人間性を回復できるまち）

- ・ 1200年以上の歴史の中で、お祭り、**藝道**、**工藝**、神社仏閣、庭園といった文化が育まれてきた
- ・ これらの文化は、このまちでくらす人々が伝え遺してきたもの

➡ だからこそ、いまを生きるわたしたちは、京都の**歴史と文化を次の世代**に引き継いでいくことが大切

② **自然と謙虚に向き合い、共生する姿勢を大切にしていく**

（自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち）

- ・ 京都は、山々に囲まれ、鴨川・桂川・琵琶湖疏水、井戸水といった豊かな水に恵まれている
- ・ この自然が、人々の生き方や美意識、信仰といった精神文化を育んできた

➡ だからこそ、わたしたちは**自然の中を生きる命の一つ**であることを改めて意識することが大切

③ **まちを支えてきた「つながり」を未来につなげ、世界とともに歩んでいく**

（自他の生をともに肯定し尊重し合えるまち）

- ・ 京都には、町内会や学区、お祭り、お稽古事、登下校の見守りといった人と人との温かい「つながり」が残っている
- ・ こうしたつながりが、長期的な共生の基礎となる「信頼」をつくってきた

➡ だからこそ、互いの**個性や文化的背景を尊重し、つながりを広げていく**ことで、世界の平和に貢献していくことが大切

2 わたしたち京都市民がめざす、9つのまちの将来像（第四章）

序文が示す価値を未来に受け継いでいくため、それぞれの価値に紐づける形で9つのまちの将来像を描く

※ わたしたち京都市民とは...

市民の皆様はもちろん、事業者、団体、行政、市会、京都とさまざまな関わり方を有する人々を含む概念

歴史と文化を介して人間性を恢復できるまち（第一節）

① 本物（ほんまもん）を追究・創造し続ける

短期的な利益のみを求めるのではなく、市内外の人々と積極的に連携・協力しながら、ほんまもんを創造し続けることで、まちの活力や基盤としていきます。

② 世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける

世界の人々と交流を重ねながら、新しい文化を創造し、またその文化を受け容れることで、世界へと活躍の場を広げるとともに人々に選ばれるまちにしていきます。

③ 「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられる

未来を担う子どもや若者をはじめ、このまちの至るところに息づく歴史や文化に触れられる環境を整えていくことで、だれもが学び続けられるまちにしていきます。

④ 平穏と静寂のもとで自己と世界に深く向き合える

あらゆる分断を乗り越え、尊重し合えることを再確認できるまちであり続けることで、世界の平和と共栄に貢献していきます。

自然への畏敬と感謝を抱けるまち（第二節）

⑤ 謙虚に自然と関わり続ける

歴史と文化を形づくってきた自然の恵みを大切にするとともに、自然の中を生かされている命の一つであるという謙虚さのもとで、日々の暮らしを営み、自然と共生するまちにしていきます。

⑥ 災害や感染症などの危機からしなやかに立ち直る

歴史の中で培ってきたしなやかさを保ち、さまざまな主体と連携・協力しながら、これから生じうる危機に備え、対応する術を探求し、立ち直ることができるまちにしていきます。

自他の生をともに肯定し尊重し合えるまち（第三節）

⑦ 多層的でゆるやかなつながりが続く

住民自治の伝統を大切にしつつ、肩書や立場を超えて、さまざまな人々とつながりを紡ぎ続けることにより、誰もが安心して暮らし、愛着を抱くことができるまちにしていきます。

⑧ 支えあいの中で日々の生活を営める

互いに支え、支えられる関係の中で、誰ひとり取り残されることなく、自分らしく、安心して安全に過ごすことができるまちにしていきます。

⑨ ひとりひとりの個性や価値観を尊重し合える

性別や国籍などに関わらず、互いを認め、尊重し合うことで、すべてのひとが個性を発揮し、それぞれが望む生き方や暮らし方を実現できるまちにしていきます。

3 めざすまちの実現に向けて（第五章）

京都基本構想が強調している京都のまちの特長とは、

- 世代や立場、文化的背景などを超えて、さまざまな人々が交流してきたまち
- それぞれが力を発揮するとともに、互いの違いを受け容れ、支え合ってきたまち

要約すると... 京都のまちは、**人との連なり** によって形づくられているということ

市内に居住する京都市民はもちろん、

- 通勤・通学される人々、観光に来られる人々
- 転出した後も京都に愛着を抱いていただいている人々
- かつて観光で京都を訪れた経験のある人々
- 京都に対して憧れを抱いてくれている人々 など

京都とさまざまな関わり方を
有する人々（= 0.1市民）

行政は、皆様の意見や提案を真摯^{しんし}に受け止め、自らの責務（=住民の幸福追求、福祉の向上）を果たしたうえで、多様な主体とともに「居場所」と「出番」を創り出し、**まちづくりの基盤**を築いていく

○ 未来への問いかけ

序文が示す 歴史と文化、自然との共生、人のつながり の3つの価値を土台に、今後直面する課題に対して、多様な主体とともに、**対話**と**議論**を重ねながら、**理想の実現を希求**していただきたいという想いを込めたもの

基本構想の策定を機に、日々の暮らしの中で、京都が受け継いできた価値に思いを巡らせ、これからの**京都のまちのあり方**について、ともに考えていただきたい

京都の多彩な魅力や価値に触れられる

「夢中になれる学び合い」の場を創出

幅広い世代が共に学び合うことを通じて、

大切に育み、紡いできた文化や産業の次世代への継承・新たな魅力発信、
子どもたちから年配の方々まで世代を超えた交流やコミュニティ活性化につなげる

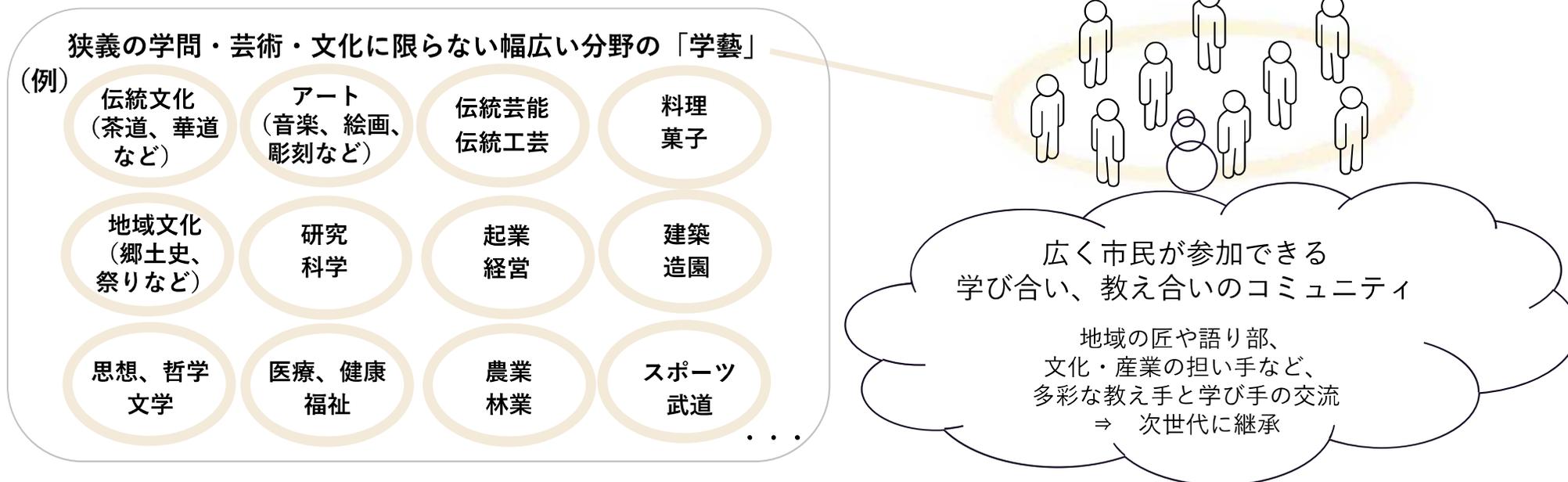


京都への愛着を醸成し、深めていただき、

京都市民や国内外の人々から愛される

「唯一無二のまち」を目指す

京都学藝衆とは？



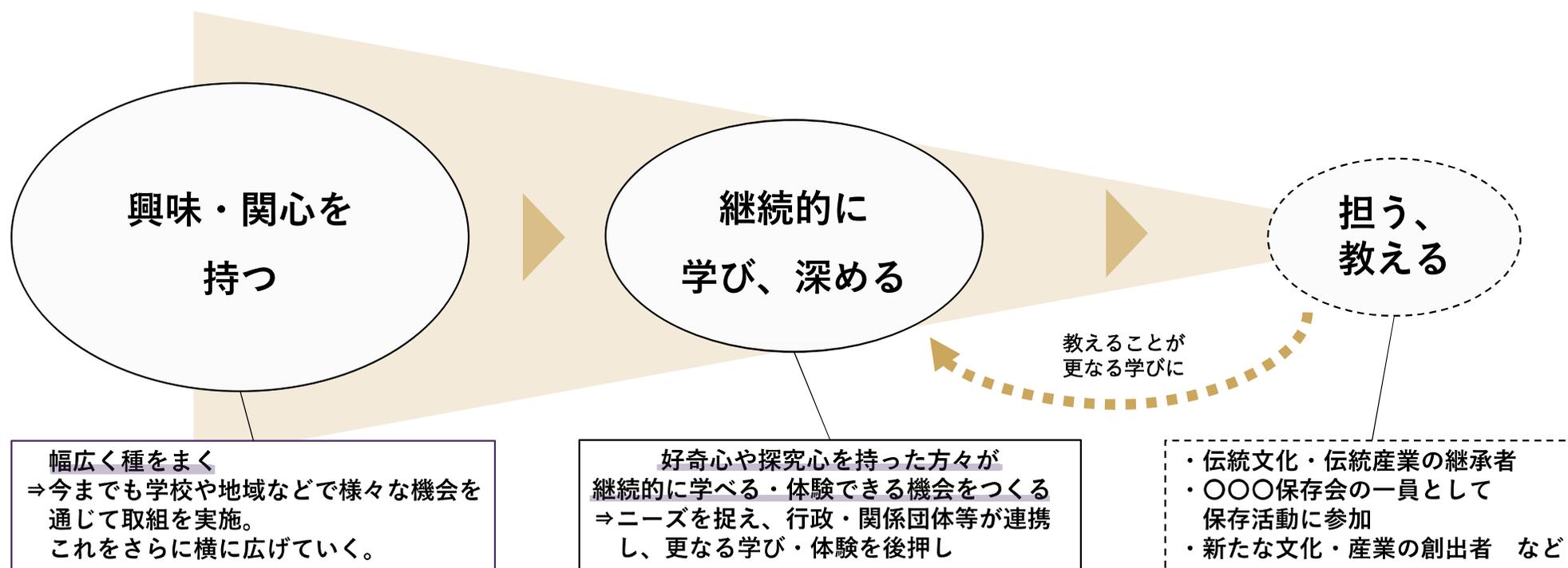
人と人、次世代への継承といった「つながり」を重視

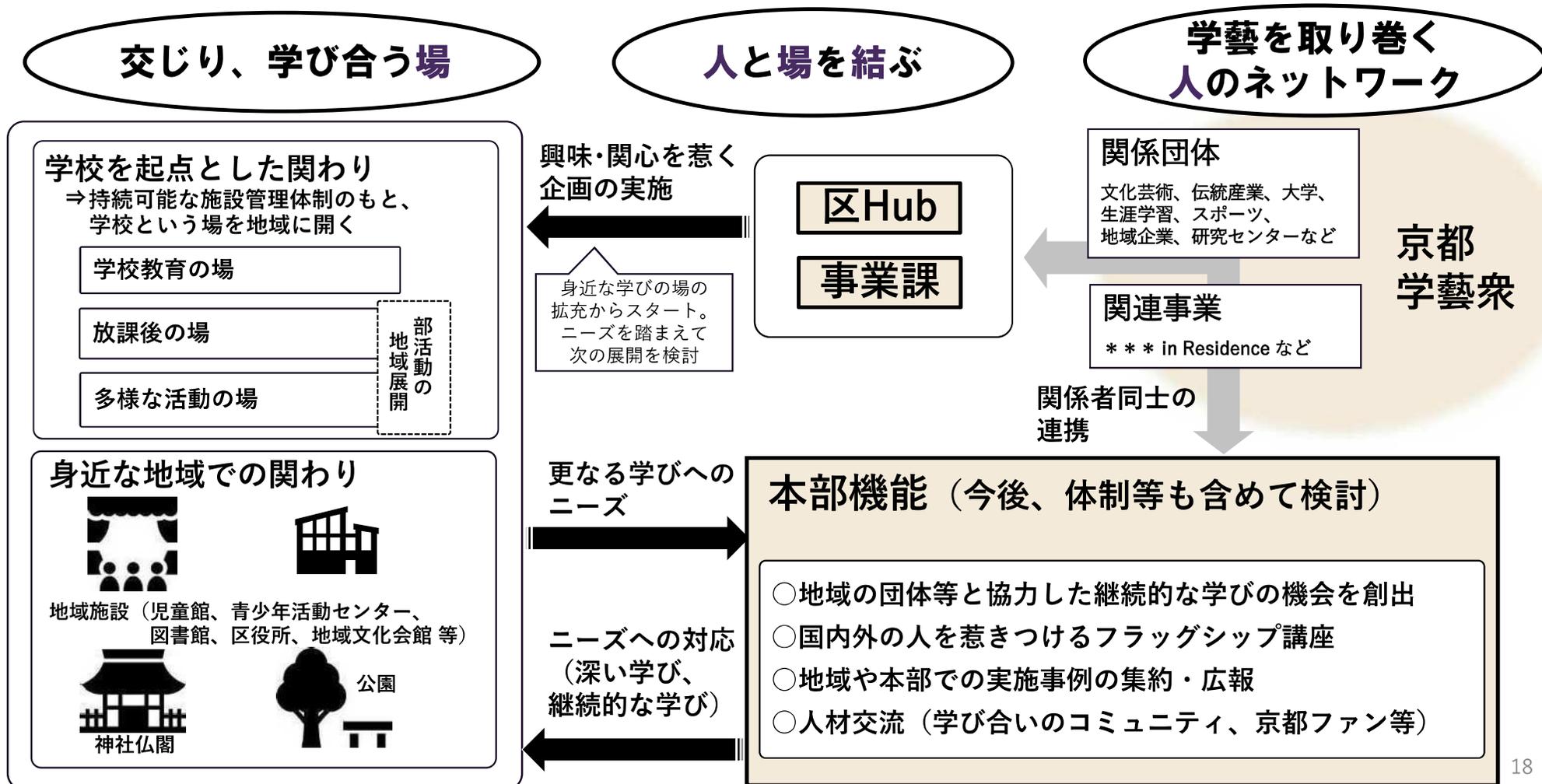
京都は、趣味、習い事、商い、祭事などを介して、ゆるやかでひらかれたつながりを紡ぎ続けるとともに、互いに支え合って歴史と文化を紡いできたまち。

このひらかれたまち柄を踏まえ、多様な技芸や技能、見識、経験を磁力として人を惹きつけ、学び合うことで、京都の魅力や価値を次の世代につなげていく方々の連なりが「京都学藝衆」

京都学藝衆構想のイメージ（夢中になれる学びのフロー）

子ども、若者を軸に、大人も巻き込みながら幅広い世代に向けて多様な学びや体験の機会を提供し、次代の担い手育成につなげる。





「太秦で学ぶ 映画と殺陣の世界」（右京区役所）

【日程】3回の連続講座

令和7年12月12日（金）

令和8年2月8日（日）

22日（日）

【場所】

右京区役所

高津商会（Kouzu Shokai）

仁和寺

【講師】

中島里佳氏（高津商会プロデューサー）

柳裕章氏（映画監督）

清家一斗氏（殺陣師・東映剣会）

【内容】

無声映画上映会、映画監督による映像制作体験、殺陣師によるアクション演出体験と小道具体験など、「映画のまち」である太秦を舞台に日本映画の奥深さを味わえる連続講座



「語らずにはいられない、社寺建築に宿る知と美の体験」（左京区役所）

【日程】

令和8年1月25日（日）

【場所】

三千院往生極楽院

勝林院

左京区役所大原出張所

【講師】

横川総一郎氏

（有限会社匠弘堂代表取締役）

【内容】

社寺建築の基礎知識や歴史、伝統的な技法に関する講義のほか、フィールドワークとして、古くから比叡山の影響を受けてきた三千院往生極楽院と勝林院を巡り、宮大工の視点で、見どころを教えていただく。社寺建築の計算し尽くされた奥深い魅力に触れ、学んだことを語らずにはいられない特別な学習体験を提供

